

# 歴史探訪

## クラブ

其の  
93



History Inquiry Club

文化振興課 ☎23局 3635

FAX 22局 3811

### 近代を支えたまぼろしの工法 「人造石」の遺構(続)

服部長七が開発した「たたき」の技法を応用したのが、人造石の遺構です。ここでは、田原市に残る人造石の遺構をいくつかご紹介します。

#### ◎浦町尾崎の人造石

組み合わせた石材には花崗岩かこうを使っています。形はあまり統一されていません。しかし、江戸時代の終わりごろ以降の石垣の積み方に似せた組み合わせをしています。高さは2・7mもあり、普通の石垣では、と



▲白谷町の人造石遺構

#### ◎白谷町の人造石

「白い谷」という地名のとおり、白い石灰岩せいかいがんに囲まれた白谷町では、民家の擁壁ようへきがわりに石垣とともに使われています。白谷には、石灰岩を焼いて石灰いしばいを作った窯もありましたの



▲浦町の人造石遺構

てもこの高さまで急な角度で積みことはできません。

#### ◎波瀬町の人造石

で、材料は簡単に手に入ったのかもしれない。石材は、近くの山でとれる小ぶりのチャートや石灰岩を使っています。

願照寺がんしょうじに残っている人造石の遺構は、花崗岩や笠山の石、チャートなどが使われています。石材も形も大きさも不揃いです。高さは2・3mあり、寺の門の左右をぐるりと囲んでいます。田原市に残る遺構のなかでは、最も規模の大きなものではないでしょうか。浦町のものに比べて、石と石との間隔が広いのがわかります。



▲波瀬町の人造石遺構(願照寺)

人造石の研究者によると、このような集落内に残っている遺構は、豊橋の神野新田干拓堤防工事(明治26〜29年)に参加した地元の作業員が、

その技術を見て、地域にある石や土を使い、見よう見まねでつくったのではないかとのことです。

低費用で施行しやすい人造石工法は、当時の土木工法としては、画期的なものでした。現在では忘れ去られています。近代社会の発展とともに歩んだ土木工法として、歴史的に重要な工法です。最近では、自然にやさしい工法として、見直され始めています。

人造石遺構は、現在はたたきの表面がモルタルなどで隠されていますが、モルタルの割れ目からたたきが見えるので、簡単に判別できます。田原市には、もともとたくさんの遺構が残っているはず。皆さんも、この人造石遺構を探してみませんか。(増山)

### 今月の「表紙」

▼イルミネーションがキラキラ輝く光を見ていると、なんとなく気分もウキウキしてきます。セントファールでは、足を止めてクリスマスツリーを見上げる多くの人が見られました。来年も、皆さんに明るい光があふれますようお願いを込めて……(O)

【表紙の写真】セントファールのクリスマスツリー